

稲田小で実際に計測する生徒



生徒の土木作業を支援

平田建設 帯工高に協力

【帯広発】(株)平田建設(帯広、長谷川雅毅社長)と帯広開建、帯広市は、帯広工業高校環境土木科3年生の課題研究「外部との連携に

よる探求学習」に協力している。同社は、参加生徒による帯広市立稲田小学校の屋外トイレ前のブロック床改修と、帯広工業高の平板

積み階段改修の監修を担当。稲田小の取組に参加した生徒は22日の開始式後、実際にブロック床の状態を視察、計測を行い、今後の施工に向けて検討を始めた。

帯広工業高の環境土木科では、土木について体系的・系統的に理解して技術を身に付けることなどを目的に、毎年3年生が「外部との連携による探求学習」に取り組んでいる。

ことしは、帯広開建・帯広市のほか、同社を対象にオンライン現場見学会などを実施した同社が協力。開建は橋梁点検などの現地学習、市はまちづくりデザインゲーム、同社は稲田小の屋外トイレ前のブロック床改修と、高校内の平板積み階段改修の施工管理の疑似体験を担当している。

22日に高校内で実施した開始式では、中島泰彰校長が「地域と連携しながら取り組めるのは貴重な機会。1年間の研究が充実したものとなるようにしてほしい」と呼びかけたあと、各取組の担当者があいさつ。

長谷川社長は「施工管理は誰しもが通る道。特に安全に注意しながら、少しでも土木というものを感じてほしい」と話した。

このあと、11人の生徒が参加する稲田小の取組では、実際に屋外トイレ前のブロック床を視察。生徒は、プロの視点からアドバイスを受けながらブロックの大きさなどを計測し、施工中の安全対策や施工方法について意見を交わした。

今後は、同社のサポートを受けながら生徒が施工計画を立て、修正し、夏休み明けにも着工する見通し。

6/24
建設

帯広工業高3年生の課題研究始まる

【帯広】地域連携で実り多き学びの場に。帯広工業高の2022年度課題研究が22日から始動した。ことしは帯広開建と帯広市、平田建設(本社・土曜が協力。同校によると、発注者や建設業者の参加は全道の工業高で初めてとなる。環境土木科の3年生40人が4班に分かれ、その道で活躍するプロの指導を受けながら都市設計や施工管理などの課題に挑む。

建設関係者が協力、都市設計などに挑戦

工業科では1989年から、3年次に各自で課題を見つけ、解決を図る課題研究を科目に設定している。帯広工業高ではこれまで、流木腐朽や2級土木施工管理検定の試験対策などに取り組んできた。

より探究できる実践的課題を求め、学校から現場見学などで

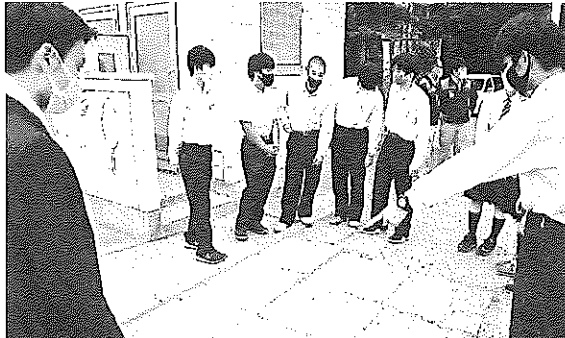
【帯広】地域連携で実り多き学びの場に。帯広工業高の2022年度課題研究が22日から始動した。ことしは帯広開建と帯広市、平田建設(本社・土曜が協力。同校によると、発注者や建設業者の参加は全道の工業高で初めてとなる。環境土木科の3年生40人が4班に分かれ、その道で活躍するプロの指導を受けながら都市設計や施工管理などの課題に挑む。

22日の開始式で平田建設の長谷川雅毅社長は「今から施工管理を体験できるのは貴重な経験。特に安全面では厳しく指導したい」と話した。生徒代表の根本一葉さんは「力は限られているが、今まで学んだことを生かして期待に応えたい」と意気込んだ。

その後、各班に分かれ今後の活動について確認した。稲田小のブロック改修班は現地を視察。凍上でがたついたブロックの寸法を測り、下校中の児童への配慮など周囲の安全対策などを考えた。

毎週水曜日の5〜6時間目を使って活動。10月までの作業を予定する。23年1月には同科2年生を交えて研究成果を発表する。

岡本博教諭は「それぞれ仕事がある中、協力してくれて感謝しかない。引き継げる研究内容は後輩に託し、次年度以降も継続できた」と話す。



稲田小の現場を見て作業方法を検討した

その後、各班に分かれ今後の活動について確認した。稲田小のブロック改修班は現地を視察。凍上でがたついたブロックの寸法を測り、下校中の児童への配慮など周囲の安全対策などを考えた。

毎週水曜日の5〜6時間目を使って活動。10月までの作業を予定する。23年1月には同科2年生を交えて研究成果を発表する。

岡本博教諭は「それぞれ仕事がある中、協力してくれて感謝しかない。引き継げる研究内容は後輩に託し、次年度以降も継続できた」と話す。

6/24
建設